



月ヶ瀬ワーケーションルーム『ONOONO (おのおの)』がオープン ～ 住民交流&地域課題解決型プロジェクトの拠点として～

■奈良市月ヶ瀬地域にワーケーション施設が誕生

2022年3月10日、奈良市東部の月ヶ瀬地域に仕事と休暇を組み合わせた働き方「ワーケーション」の施設としてオープンした月ヶ瀬ワーケーションルームの正式名称が「ONOONO (おのおの)」に決定した。施設名と月ヶ瀬を象徴するカラーのロゴマークは、地域住民を対象としたヒアリングとアンケートを基に考案され、「おのおのが持っている資源や能力を持ち寄る場所」「おのおのが実現したいことを叶える場所」「おのおのがこれからの地域づくりの主体となる場所」との思いが込められている。

所轄の月ヶ瀬行政センター地域振興課によると、オープンから4カ月を経て地域住民を中心に延べ約700人の利用があり、鳥のさえずりだけが聞こえる静かな環境の中でリモートワークをするほか、各種イベントでの利用や隣接する学校の下校時に児童と保護者が立ち寄るなど日常的な交流にも利用されている。

■「共助」と「資源循環」で持続可能な地域社会を目指す

月ヶ瀬地域を含む奈良市東部は少子高齢化・人口減少が進んでおり、奈良市は地域の課題を住民や行政、企業・団体などが協力して解決を目指すプロジェクト「Local Coop 月ヶ瀬」に取り組んでいる。「ONOONO」はワーケーションおよび地域住民の交流の場であるとともに、「Local Coop 月ヶ瀬」の一環として、住民が自分たちの地域課題を認識し、地域外の人との視点に触れ、連携して課題解決の糸口を探る活動拠点としても期待されている。「共助」と「資源循環」をキーワードに、地域内外の交流を通じて、住民一人一人の暮らしと生きがいや地域の豊かさをともに創っていく持続可能な地域社会の構築を目指す。

■当時の雰囲気を残した思い出の場から学びを発信する

「ONOONO」は、2019年度に廃止された旧月

ヶ瀬学校給食センターを奈良市が改修した。プロジェクトやWi-Fi、会議室など仕事に必要な設備が揃う一方、学校生活や児童らが給食を食べた思い出の場として残そうと、天井や建物内部はほぼ手を加えず当時のままで、学校で使われていた跳び箱や勉強机が所々に置かれ、どこか懐かしい雰囲気醸し出している。給食センターで使われていた大型炊飯釜を活用した仕事机や旧調理室を改装した作業場など、他にはない雰囲気が特徴的だ。寄贈図書による書籍の貸出も可能で、地元住民が気軽に集まりやすい施設を目指したという。

月ヶ瀬行政センター担当者は、「『ONOONO』を地元の利用者と外の利用者とのブリッジの役割を持つ施設にしたい。周りの地域も同じような課題を抱えている。月ヶ瀬地域の取組みがモデルケースとなり、周りの市町村を巻き込んで相互で学んでいきたい」と話す。(八木陽子)



(左上から時計回りに) ワークショップの様子、大型炊飯釜の机、外観、ロゴマーク

【「ONOONO」概要】

所在地：奈良県奈良市月ヶ瀬尾山 2350-1
旧奈良市月ヶ瀬学校給食センター
利用時間：9:00～17:00
TEL&FAX：0743-99-2179
URL：https://onoono-nara.jp/